

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 授業に取り組む姿勢は悪くないが、学習習慣が身につけていない生徒が多く、学力の向上につながっていない。
- (2) 配慮を要する生徒が増え、個々への対応が困難になってきている。指導体制の構築が課題である。
- (3) 教員は人権の視点に立った授業改善に取り組んでいる。今後も全教科等で課題を見極め、テーマを設けるなど組織的な取組が必要である。

2 中期学校経営方針

(1) 中期取組目標

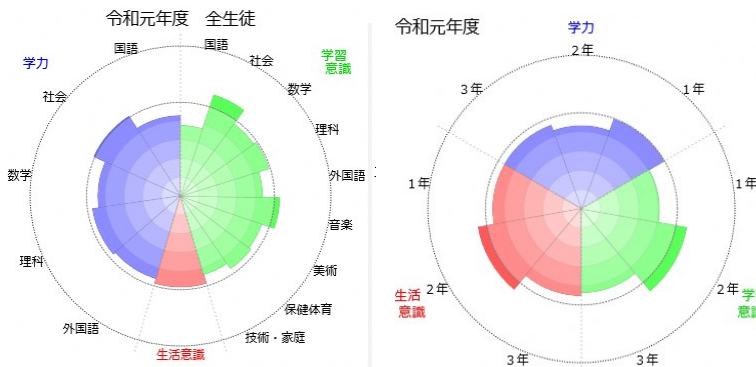
中期取組目標
1. 一人ひとりの生徒を大切にしたい分かる授業を推進し、学力の向上を図ります。 2. 人権・福祉の学習をさらに推進し、暴力や差別のない、挨拶と笑顔のあふれる学校づくりを進めます。 3. 生徒や保護者の思いを大切に受け止め、相互の信頼感と相手意識をもって柔軟な学校づくりを目指します。 4. 地域の温かさ大切さを語り継ぎ、「地域とともに歩む学校」の実現に向けて努力します。 5. 教職員が、社会的な視点・要請を自覚し、危機意識と当事者意識を持って学校運営に取り組みます。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
生きて はたらく知 (学習指導)	・生徒による授業評価を活用し、「わかる授業・楽しい授業」を推進する。	・授業評価を夏休み前に実施し、それをもとに授業研究を行い、目の前の生徒に対して学力の向上を図る取組を行う。 ・人権の視点を踏まえた授業づくりを行い、「わかる授業・楽しい授業」の実現によって、進路保障・学力保障につなげる。
担当	学習指導部	

3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



令和2年度は実施していないが継続的に指導することが望ましい。全体的に、横浜市の平均値から下回る教科が多い。学年ごとの分析チャートを見比べると学年によって大きく差が生じている。ある学年は、学力は平均に達するが意識は決して高くはない。一方で意識は高いが学力が追いついていない学年など、学年により課題が異なっている。そのため、意欲を大切にしながら基礎学力を固めるための教職員全員による組織的取組が必要で、授業力を向上させるための研究研修を設定していくことが重要である。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：3学年ともに「聞く」「読む」力は市の平均に近いが、「話す」「書く」などの「伝える」力を伸ばす必要がある。
- 社会科：社会の学習に意欲的に取り組んでいる。学力は市の平均と同じ程度に位置している。意識の高さを軸にしてさらなる学力の向上につなげていきたい。
- 数学科：2, 3年生は学習意識は市平均レベルだが、1年生の学習意識は低い。苦手意識をなくせるような授業作りを意識したい。学力は市の平均を下回っている観点が多く、1, 2年生は、基礎・基本の観点が低い。繰り返し問題を解いたり、プリント学習をしたりして基礎の定着に力を入れていきたい。
- 理科：全体の学力は去年に比べ上がっている。「理科の観察、実験は好きですか」という質問に対して市の平均を上回っている。ただし、「観察・実験の技能」の観点の平均が市の平均を下回っている。観察・実験を行う上で楽しみながら、基礎を定着させていきたい。
- 外国語科：3年生は学力が向上した。2年生は意識が向上しているので基礎の定着に力を入れたい。1年生は読む力、聞く力が高く、市の平均を上回っているため、今後さらに意欲を高められるように工夫したい。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成27年度から令和元年度5年間の変化を見ると、学校全体としては、各教科とも高まっている状況であるが、学習意識は、教科による差が大きい。

4 令和3年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- 漢字等基礎的・基本的な内容を計画的に反復学習させる。
- 生徒の興味・関心を高めるために、視聴覚機器を取り入れるなど、学習形態を工夫する。
- 目的や場面、意図等を意識して話すこと聞くこと、書くこと、読むことの活動を行い、伝える力を培う。

数学

- 基礎的な計算や知識の定着を図れるように分かりやすい授業を心がける。
- 1時間の授業の中で生徒自身が「わかった」という瞬間ができるように意識して授業を行う。
- 生徒自身の力で問題を解けるように丁寧にフォローをしていく。

音楽

- 音楽や音楽文化に親しみ、音楽活動を充実させる上で必要な基礎的・基本的能力の伸長を図る。
- 歌唱課題では、コミュニケーション能力を向上させる活動を取り入れ、協働的に取り組む姿勢を育てる。
- 鑑賞や創作では他教科領域の学習と関連付け、生徒がより多角的に考え主体的に学ぶ授業展開を目指す。

技術・家庭

- 実践的・活動的活動を充実させ、実生活と結びつけた授業を行うことで、関心・意欲の向上を図る。
- ICT機器を活用し、実技見本等をよりわかりやすくし、ものづくりでのつまづきの軽減を図る。

特別活動

- コミュニケーション能力を育みよりよい人間関係を築かせるために、行事活動の充実を図る。
- 話し合い活動では、相手の考えや思いを尊重し、協力して問題解決する態度を育てる。

個別支援学級

- 生徒自ら主体的に学習に取り組むために、一人ひとりの実態に応じた学習環境を整える。
- 言語活動の場を多く設定し、コミュニケーション能力を高める。
- 個別の指導計画を定期的に見直し、生徒に合わせた指導の充実を図る。

社会

- 思考判断表現力を高めるため、単元の「問い」を中心として課題を明確にして授業を構成していく。
- ICT機器を利用し、写真・地図・グラフなど視覚的な情報を多く提示することで学習内容の理解につなげていく。
- 目標設定を明確に行い生徒が学習の方向性を定められるようにする。

理科

- 身近なものと学習内容を結びつけて思考することで、意欲をさらに向上させる。
- 予想や考察など考える活動を積極的に設ける。
- 観察実験の技能を定着するよう実験を行う時間を多く設ける。
- 定期的に練習問題等に取り組む時間を設け、知識理解の定着を図る。

美術

- ICT機器をさらに活用したわかりやすい資料提示、実技見本、鑑賞活動を展開させる。
- 生活の中に関わるものや事柄に、美術的な視点を結びつけた内容で、興味関心を引き出す。
- 題材全体の活動の中で、見通し・振り返りを大切に授業づくりを行い、生徒による授業評価等で検証し、授業改善を進める。

外国語

- 実際のコミュニケーションにおいて活用できる、聞く、読む、話す、書く技能を身につける活動を充実させる。
- いろいろな教材を用いて、生徒の興味を惹きつける授業展開を目指す。

総合的な学習の時間

- 地域祭礼への参加で実体験したことを整理分析することで、地域で生きる自分自身を意識していく。
- 職業体験、職場体験を通じたキャリア教育で、自己の将来への考えを深める姿勢を身につけ、進路選択へつなげていく。